

牧師室から (2023.3.26)

20日月曜日に大森めぐみ教会で、昨年逝去された川村輝典先生の記念会があった。私は神学生時代より先生には個人的にお世話になっていて、赴任後にもご配慮いただき、正直言えば、先生ご夫妻には最も世話をおかけした者の一人であったと自負している（これは決して威張れることではないが）。先生は優れた学者でありつつ、また教会を大事にされ、更に後進の指導、そして学校においても教鞭をとっておられて更に連長および改長協の重責を担いつつ、執筆もされていたというまさに超人的なお方であったと思う。そんなご多忙な身にもかかわらず、毎週土曜日に私が教会の掃除に行くと、その後、個人的に語学、神学書講読を教授してくださり、その後ご夫人の用意された食事に招かれ、忙しそうなそぶりを見せずに、夜遅くまで談笑をしてくださった。私は、今思い返すと様々な面で先生は卓越したお方だと思いうけれども、何よりもそのお人柄が忘れられない。温厚であり、人との距離感が適度な品の良さがおありだった。ただ、離れていても十分にお心にかけてくださっていた。そして私を牧師として信頼してくださったのが伝わって来て、とても嬉しかった。また先生の牧会からは、信徒を差別しないということを学んだ。確かに教会には、愛されにくく、他の信徒からからも避けられがちな者がいるかもしれないが、そのような信徒や求道者に対しても先生は真摯に対応されていたのは、なかなかできることではないと思った。先生がご存命の間に、十分な恩返しができなかったのが残念である。

(鈴木淳一牧師)